

第50回

名古屋大学附属図書館友の会 トークサロン ふみよむゆふべ

シャルトル大聖堂のステンドグラスを読み解く かたり木俣 元一氏（名古屋大学名誉教授）

13世紀初頭の作品であるシャルトル大聖堂の身廊・側廊・内陣のステンドグラスには、多数の働く人々（職人・商人・農民）の姿が描かれている。またそこには聖職者や王侯貴族の姿も見いだすことができる。これらの多様な階層の人々のイメージは、19世紀以降様々なかたちで読み解かれてきた。今回は、2010年代に実施された修復の結果かつての輝きを取り戻したステンドグラスを対象として2019年に行った現地調査で撮影した画像をご覧いただき、ジョン・ラスキン、マルセル・プルースト、さらには20世紀を代表する受容美学の美術史家ヴォルフガング・ケンプの見解などを紹介しつつ、私見にも触れながら、中世美術を解釈するにあたっての限界と可能性について考えていきたい。



パン職人
シャルトル大聖堂のステンドグラス
13世紀初頭、撮影者：木俣元一

2024年12月12日（木）

午後6時～7時30分

名古屋大学中央図書館2階ディスカバリスクエア

名古屋大学附属図書館 後援

名古屋大学附属図書館友の会

Phone: 052-789-3684

E-mail: libtomo@t.mail.nagoya-u.ac.jp

<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

参加無料, 申込不要
会員外参加も大歓迎!

